

【目次】

1. 友愛会第8周年大会で日本労働総同盟友愛会に改称、1920（大正9）年10月！
2. 労働運動と政党政治に終止符を打った大政翼賛会の結成、1940（昭和15）年10月！
3. 賀川豊彦『死線を超えて』から100年、大正期最大のベストセラー！
4. 連載「日本労働会館物語」第81回—労働運動・生協運動に生きた井堀繁雄 その1—！

1. 友愛会第8周年大会で日本労働総同盟友愛会に改称、1920（大正9）年10月！

1912年8月1日に創立された友愛会は「人格の向上をめざす友愛的・人格向上主義的労働団体」としてスタートしましたが、それは「労働者の利益の実現のために戦う指導部というよりは、実質的には出版および演説会、講演等による啓蒙機関、争議調停機関」（『総同盟50年史』）でした。

友愛会はその後、棚橋小虎・麻生久・山名義鶴・野坂鉄らが加入して次第に急進化し、労働組合らしくなっていきます。1919（大正8）年10月、友愛会は第7周年大会で名称を大日本労働総同盟友愛会と改称します。“総同盟”という名称・用語の初登場です。



友愛会は1920（大正9）年10月の第8周年大会で会名から“大”をとり、日本労働総同盟友愛会と改称。さらに翌1921（大正10）年10月大会で会名中から“友愛会”を削り、日本労働総同盟とします（写真は友愛会第8周年大会。1920年10月5日、九条市民殿・大阪中之島天王寺）。

会の名称はその団体・組織の性格やあり方を反映するものであり、友愛会から総同盟への名称変更には興味深いものがあります。因みに“同盟”とは「共同の目的のために同一の行動をとることを約すること」（広辞苑）。友愛会の流れを汲む総同盟や同盟（現在の連合）が、組織拡大よりも理念や共同行動を優先していたため一部の有識者から“排他的”“内に籠る”“原理主義”と揶揄されることがありましたが、それは“同盟体”だったからでしょう。

2. 労働運動と政党政治に終止符を打った大政翼賛会の結成、1940（昭和15）年10月！

80年前の1940（昭和15）年10月12日は、ナチスの台頭などによる国際的な「一国一党組織」への高まりの中で大政翼賛会（1940.10.12～1945.6.13）が設立され、「翼賛体制」が確立された年です。

梅澤昇平氏（尚美学園大学名誉教授）は著書『幻の勤労国民政党—歴史の曲がり角と人間—』で大政翼賛会と社会大衆党（社会民衆党や日本労農党が合併した無産政党）に言及し、「社会大衆党は、7月にいち早く解党を決め、近衛を担いだ新党運動、つまり大政翼賛会に流れ込んだ。これが引き金となって民政党、政友会など既成政党が雪崩を打って解散した。政党政治に止めを刺したのは社会大衆党であった。消し様もない政党政治の一大汚点をつくった」と記しています。



総同盟は1940年7月に組織解散（写真は解散を決めた総同盟全国代表者会議）に追い込まれており、大政翼賛会結成の1940（昭和15）年は自由と民主主義、労働運動と政党政治に終止符を打った「翼賛体制」確立の年として記憶されています。

3. 賀川豊彦『死線を越えて』から100年、大正期最大のベストセラー！

100年前の1920（大正9）年10月3日、賀川豊彦著『死線を越えて』が改造社から出版されました。キリスト教伝道者・賀川豊彦（1888.7.10～1960.4.23）はさまざまな社会改革運動に取り組んだ人物で、労働運動では1921年に起きた神戸の川崎・三菱争議などを指導しています。

『死線を越えて』は賀川豊彦の前半生を投影した自伝的な小説とされ、出版されると100万部が売れて大正期最大のベストセラーになりました。『死線を越えて』は何度も復刻され、多くの人々に読まれています。また、映画『死線を越えて』も制作されています。

『死線を越えて』など一連の著作による賀川の印税収入は莫大なものとされますが、彼はその多くを社会運動・労働運動・農民運動・協同組合運動などにつぎ込んでいます。総同盟が1930（昭和5年）に友愛会誕生の地、惟一館（旧ユニテリアン教会）を買収し、日本労働会館としたときも賀川豊彦はその建設を資金面で支えています。



「愛と協同に生きた、賀川豊彦の足跡を伝える」ための活動を展開している賀川豊彦記念松沢資料館は現在、『死線を越えて』発刊100年記念として『死線を越えて』（復刻刊行会。税込1540円）と映画DVD『死線を越えて』を販売中です。DVD『死線を越えて』（定価：2750円税込み）は国広富之・黒木瞳出演の映画で、1988年の賀川豊彦生誕100年記念事業の際に制作されました。

賀川豊彦記念松沢資料館 〒156-0057 東京都世田谷区上北沢3-8-19

TEL03-3302-2855、Fax03-3304-3599

4. 連載「日本労働会館物語」第81回—労働運動・生協運動に生きた井堀繁雄 その1—

井堀繁雄（1902.9.30～1983.7.18）は戦前、労働運動・農民運動で活躍し、戦後は政治家・生協運動家として知られた人物で、1972年には（財）日本労働会館の理事長に就任しています。

井堀は1921（大正10）年の川崎・三菱争議に参加し、禁固刑を受けて解雇。その後、上京し、総同盟東京鉄工組合で活躍します。彼の活動拠点の街として知られた埼玉県川口市。



井堀は戦前、川口の鋳物工場で起きた数多くの労働争議を指導しており、それは著書『川口鋳物業に於ける労働運動十年史』にまとめられています（写真は昭和5年の王子鉄工所争議）。また、彼は日本農民組合総同盟の結成に参加し、埼玉農民運動でも活躍。戦後は日本社会党・民社党の衆議院議員として活躍する一方、生協運動・協同組合運動に取り組みました。

友愛労働歴史館は現在、井堀繁雄研究会（代表：梅澤昇平尚美学園大学名誉教授）を設置し、井堀繁雄日記のデジタル化作業や彼の生涯を描いた『社会運動家・井堀繁雄—労働運動・生協運動に生きた生涯—』（仮題）の執筆・編集に取り組んでいます。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝2-20-12

友愛会館8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairekishikan.com>

惟一館から125年、友愛会から107年